

令和4年度

要 覧



鹿児島県立博物館

館 旗



制定日	昭和57年7月2日
モチーフ	「鹿児島 naturally」 「内側の赤い円」……………太陽と火山 「大きな青緑の円」……………黒潮と緑の大地 「白い鳥」……………生物 豊かな自然の中で、大きな翼をもち、ひらけゆく 未来に向かってはばたく博物館を象徴する。
デザイン	鹿児島県立川内商工高等学校(昭和57年) 教諭 滝下 隼人

目 次

1	鹿児島県立博物館のあゆみ	2
(1)	沿革	2
(2)	歴代館長	3
2	施設・設備の概要	4
(1)	館内配置	4
(2)	施設・設備	5
(3)	施設用途別面積	5
3	令和4年度県立博物館運営方針と努力点	6
(1)	運営方針	6
(2)	努力点	6
4	組織及び職員	7
(1)	組織	7
(2)	職員	7
5	令和4年度県立博物館事業体系表	8
6	博物館活動事業	9
(1)	資料収集・保管	9
(2)	調査研究	11
(3)	展示活動	13
(4)	教育普及活動	18
7	令和4年度年間行事予定表	21
8	令和3年度主要事業等の経緯	24
(1)	活動経緯	24
(2)	企画展等	25
(3)	資料収集・保管活動	25
(4)	調査研究	25
(5)	教育普及活動	26
(6)	博物館利用状況	30
9	博物館利用の案内	31
(1)	入館の手順	31
(2)	見学に要する時間と収容人員	31
(3)	団体見学の申込	31
(4)	博物館の場所と交通手段	32
(5)	その他	32

【表紙写真】

外壁補修工事後の本館

外壁補修工事は、令和3年8月～
令和4年2月の期間で行われた。

1 鹿児島県立博物館のあゆみ

(1) 沿革

ア 旧館時代 明治16(1883)年～昭和55(1980)年	
明治16年 9月	旧考古資料館の建物(旧県立興業館)竣工落成
大正 3年 4月	大正3年1月の桜島噴火関係資料保存展示のため、県立図書館内に博物部常任委員会を発足
4年 8月	県立図書館内に郷土博物室を設置、動植物・考古・民俗等の自然や人文関係の資料収集開始
昭和 2年10月	現博物館本館の建物(旧県立図書館)竣工落成
26年11月	昭和20年戦災焼失した県商工奨励館を博物館として再建(工事費250万円)
昭和28年 3月	再建した建物に資料を移し、鹿児島県立博物館として発足
	鹿児島県立博物館設置条例制定
38年 6月	「ウシウマの骨格」が県指定天然記念物に指定(17日)
50年 1月	考古・民俗等の人文資料を明治百年記念館調査室に移し、「鹿児島の自然」をテーマに統一し、館内資料を整理
54年 7月	新博物館構想策定委員会発足(5日)
9月	展示シナリオ作成委員会発足(26日)
55年 4月	鹿児島県立博物館組織規則改正、専任館長任命
11月	旧県立図書館を新博物館として改装工事完了(15日)
12月	新博物館展示工事完了(25日)

イ 県文化センター・科学館時代 昭和38(1963)年～昭和55(1980)年	
昭和38年 7月	県文化センター調査事務局設置(24日)
39年 2月	基本構想(文化会館と科学館との併設)が知事に答申
40年 1月	小川勇吉氏より、恐竜化石(2体)、アンモナイト、三葉虫、その他の化石434点が、鹿児島県に寄贈(29日)
7月	県文化センター建設工事起工(16日)
41年11月	県文化センター開館(15日)
	プラネタリウム室、恐竜化石展示室、理工系展示室、実験室を備えた科学館を県文化センター内に開設
55年 3月	プラネタリウム投影機更新(30日)
56年 1月	プラネタリウム室、恐竜化石展示室は現状のまま県立博物館に引き継がれ、実験機器、理工系展示資料は、現県立博物館本館に移管される。

ウ 新館時代 昭和56(1981)年～

旧県立図書館が新博物館に改装されたのに伴い、旧博物館の建物は考古資料館として整備され、県文化センター科学館の展示資料は新博物館3階の理工系展示場に移管・展示された。また、プラネタリウム・恐竜化石展示室は、そのままの状態でも新博物館に引き継がれ現在に至っている。

昭和56年 1月	鹿児島県立博物館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定(1日)
	鹿児島県立博物館協議会条例制定(1日)
	鹿児島県立博物館新館開館式挙行(12日)、博物館としての登録(12日)
3月	鹿児島県教育委員会の行政組織等に関する規則の一部を改正する規則制定
	附属機関設置(鹿児島県立博物館協議会)
57年 7月	館旗制定(モチーフ「鹿児島の自然」、デザイン「滝下隼人氏」)(2日)
58年 6月	プラネタリウム室使用料の減免措置実施(12日)
7月	皇太子殿下、皇太子妃殿下博物館行啓訪問、本館御見学(28日)
59年 4月	「路傍300種に親しむ運動」開始(3か年計画)
60年 4月	「身近に親しむサイエンス」推進事業開始(3か年計画)
61年 5月	昭和56年からの入館者100万人達成(11日)
62年 4月	「みんなで創る博物館」推進事業開始
7月	鹿児島国際火山会議特別展「火山とくらし」開催(14～24日)
平成 2年 9月	理工系展示室閉鎖、自然史応用部門展示室として改装工事始まる
3年 2月	展示場改装及びボリビア産化石展開場式挙行(15日)
4月	収蔵資料目録作成事業開始(3か年計画)
4年 5月	自然のつながりリサーチ事業開始(5か年計画)
5年 4月	鹿児島の自然調査事業開始(5か年計画)
7月	学習情報室開設
8月	考古資料館実態調査
11月	昭和56年からの入館者200万人達成(9日)
	博物館連携協力事業(国立科学博物館共催)「博物館地域科学活動指導者セミナー」(13～14日)
6年 2月	考古資料館 内装及び外庭整備
8月	創設40周年記念特別企画展「鹿児島と世界の大昆虫展」
7年 4月	自然へのアプローチ普及活動事業～博物館がやってきた～開始
8月	考古資料館屋根の葺替え
8年 4月	本館2F常設展示及びエントランスホール整備事業開始
9年 3月	本館外壁工事完了
	本館2F展示場改装開場式挙行(19日)
4月	親子の自然観察ゼミナール事業開始(5か年計画)

10年 4月	博物館自然資料整備事業開始(3か年計画)
12月	考古資料館登録有形文化財に登録(11日, 第1号)
11年10月	本館2F屋久島ジオラマ修復工事完了
12月	プラネタリウム椅子取り替え工事完了
12年 8月	文部省 科学系博物館活用ネットワーク推進事業開始(2か年計画)
13年 4月	触れ見る知る自然資料収集整備事業開始(5か年計画)
14年 1月	昭和56年からの入館者300万人達成(10日)
4月	「自然に飛び出せ／子ども学芸員」育成事業開始(5か年計画)
11月	考古資料館閉館(5日)
15年 7月	本館耐震補強及び収蔵庫改築工事着工。 (本館は7月1日より休館, 県立図書館3階に仮事務所設置)
16年 7月	本館耐震補強及び収蔵庫改築工事完了(本館は8月1日より開館)
18年 3月	旧収蔵庫解体工事完了
4月	郷土の豊かな自然遺産資料収集整備事業開始(5か年計画)
19年 6月	特別整理休館日を設置(常設展示リニューアル開始)
20年 3月	フィールドワーカー養成講座(科学技術振興機構助成)開始
4月	身体障害者用駐車場が完成
4月	博物館本館登録有形文化財に登録(18日, 第65号)
4月	旧考古資料館前ソテツ「世界ではじめて精子が発見されたソテツ」として県指定天然記念物に指定(22日)
21年 5月	第1回「博物館まつり」開催(24日)
22年 5月	SPP事業「屋久島の自然から学ぼう」実施(15日:以後12月まで全6回)
23年 4月	豊かな鹿児島県の自然遺産収集保存事業開始(5か年計画)
8月	立体映像(3D)投影装置リニューアル(12日)
24年 2月	エレベーター更新(28日)
3月	昭和56年からの入館者400万人達成(24日)
25年 6月	恐竜化石リニューアル・音声ガイド導入(30日)
	「桜島大正噴火写真展」(~平成26年1月)
	桜島大正噴火100周年記念 特別企画展「桜島火山100年の軌跡」(~9月)
27年 3月	収蔵資料データベース公開(10日)
4月	「薩摩隕石」が県指定天然記念物に指定(17日)
28年 4月	人と共に生きる鹿児島県の自然遺産収集保存事業開始(5か年計画)
	収蔵資料の「スレッドレーススコリア」が県指定天然記念物に指定(19日)
29年 1月	スマートフォンでの展示解説サービス開始(11日)
30年 4月	本館3階自然総合展示室Bリニューアルオープン(27日)
令和 2年12月	昭和56年からの入館者500万人達成(13日)
3年 4月	多様性豊かな鹿児島県の自然遺産収集保存事業開始(5か年計画)
	「大隅石(オオスマライト)標本」が県指定天然記念物に指定(23日)
3年 8月	本館外壁改修工事着工(本館は8月3日~10月31日の間, 臨時休館)
4年 3月	本館外壁改修工事完了

(2) 歴代館長

館長名	在任期間	館長名	在任期間
1 久保田 彦 穂	昭和28年 3月 ~ 昭和41年 3月	17 畑 田 健 治	平成13年 4月 ~ 平成15年 3月
2 山 下 巖	” 41年 4月 ~ ” 45年 3月	18 原 田 正 美	” 15年 4月 ~ ” 16年11月
3 寺 師 次 夫	” 45年 4月 ~ ” 47年 8月	19 鷺 東 重 明	” 16年11月 ~ ” 17年 3月
4 犀 川 碓 吉	” 47年 8月 ~ ” 50年 3月	20 椎 原 和 郎	” 17年 4月 ~ ” 19年 3月
5 宇 都 哲	” 50年 4月 ~ ” 51年 3月	21 黒 江 修 一	” 19年 4月 ~ ” 22年 3月
6 嶋 元 牧 雄	” 51年 4月 ~ ” 53年 3月	22 山 下 和 則	” 22年 4月 ~ ” 24年 3月
7 谷 崎 哲 夫	” 53年 4月 ~ ” 54年 3月	23 水 流 芳 則	” 24年 4月 ~ ” 27年 3月
8 山 下 典 夫	” 54年 4月 ~ ” 55年 3月	24 川 原 裕 明	” 27年 4月 ~ ” 29年 3月
9 前 村 義 巳	” 55年 4月 ~ ” 58年 3月	25 中 間 弘	” 29年 4月 ~ ” 30年 3月
10 桑 原 一 廣	” 58年 4月 ~ ” 59年 3月	26 福 永 広 隆	” 30年 4月 ~ ” 31年 3月
11 北 原 昭 男	” 59年 4月 ~ 平成元年 3月	27 鈴 木 敏 之	” 31年 4月 ~ 令和 4年 3月
12 福 田 晴 夫	平成元年 4月 ~ ” 4年 3月	28 山田島 崇 文	令和 4年 4月 ~
13 立 園 多賀夫	” 4年 4月 ~ ” 6年 3月		
14 田 尻 昌 也	” 6年 4月 ~ ” 8年 3月		
15 井出口 龍 哉	” 8年 4月 ~ ” 10年 3月		
16 永 喜 久 一	” 10年 4月 ~ ” 13年 3月		

(2) 施設・設備

本館(登録有形文化財 第46-0065号)

区分	面積(m ²)	主な内容
1階	676.61	企画展示室, 館長室, 総務室, 参与室, 学芸室, ボランティアルーム
2階	652.68	自然総合展示室A, ディスカバリールーム, 保存処理室
3階	629.72	自然総合展示室B, 研修室, 学習情報室, 3D劇場, 学習機器室
4階	119.55	会議室
収蔵庫	798.54	第1～第3収蔵庫, 薬品庫
その他	42.60	エレベーター室
延床面積	2,919.70	
建築面積	1,007.96	
敷地面積	1,856.13	

全館 (m²)

延床面積	4,764.82
建築面積	1,345.44
敷地面積	2,400.03

プラネタリウム・恐竜化石展示室

区分	面積(m ²)	主な内容
プラネタリウム	190.04	星座投影室, 準備室
天文展示室	85.80	天文資料展示室
化石展示室	454.55	恐竜, アンモナイト, 三葉虫など
バルコニー	152.40	
その他	287.36	廊下など
延床面積	1,170.15	

旧考古資料館(登録有形文化財 第46-0001号)

区分	面積(m ²)
1階	337.48
2階	337.49
延床面積	674.97
建築面積	337.48
敷地面積	543.90

(3) 施設用途別面積(旧考古資料館を除く)

(m²)

区分	室名	展示面積	教育普及面積	保管面積	研究面積	管理・その他	計
本館	館長室					30.60	30.60
	参与室					20.40	20.40
	総務室					62.40	62.40
	学芸室				78.00		78.00
	ボランティアルーム				25.50		25.50
	事務機器室					30.60	30.60
	企画展示室	87.12					87.12
	2階自然総合展示室A	424.02					424.02
	ディスカバリールーム	101.08					101.08
	保存処理室				20.25		20.25
	3階自然総合展示室B	353.70					353.70
	研修室		120.12				120.12
	学習情報室		70.32				70.32
	学習機器室				14.18		14.18
	収蔵庫(1～3)				798.54		798.54
会議室					68.76	68.76	
階段・廊下等					614.11	614.11	
計		965.92	190.44	798.54	137.93	826.87	2,919.70
プラネタリウム	プラネタリウム・恐竜化石展示室	639.39	91.00				730.39
	準備室等			10.24	24.29	405.23	439.76
	計	639.39	91.00	10.24	24.29	405.23	1,170.15
合計	計	1,605.31	281.44	808.78	162.22	1,232.10	4,089.85
全面積に占める割合		39%	7%	20%	4%	30%	100%

3 令和4年度 県立博物館運営方針と努力点

(1) 運営方針

本県教育振興基本計画に本年度から掲げられた基本目標である「夢や希望を実現し、未来を担う鹿児島の人づくり」を推進するため、生涯学習環境充実の観点から、自然資料の収集や調査、研究を積極的に行って、博物館活動の基盤づくりを推進する。また、展示や教育普及等を通して、県民が郷土の豊かな自然に親しみ、触れ合う機会の拡充を図り、広く県民へ郷土の豊かな自然に関する情報を提供することで、生涯学習の場として、県民に親しまれる開かれた博物館づくりに努める。

(2) 努力点

市町村教育委員会や学校及び関係機関・団体等と連携しながら、次の博物館活動を推進する。

ア 資料収集・保管

教育的・学術的に価値の高い自然資料を計画的・継続的に収集し、整理保管するとともに、収蔵資料の有効な活用が図れるよう収蔵資料データベースを公開する。

イ 調査研究

資料に関する調査・研究を推進するとともに、郷土の豊かな自然を総合的に調査・研究し、その成果を広く県内外に発信する。

ウ 展示活動

常設展示の工夫・改善を積極的に推進し、魅力ある企画展や速報展等の開催及び館外で実施する移動展示など、県民の多様なニーズに対応した展示活動を展開する。

エ 教育普及活動

県民が気軽に参加できる活動を推進するとともに、自然科学に関する最新情報の提供等を通して、県民の自然に対する理解と関心を高める。また、教職員の研修や児童生徒の理科学習、ボランティア活動、「総合的な学習(探究)の時間」への支援を積極的に行う。



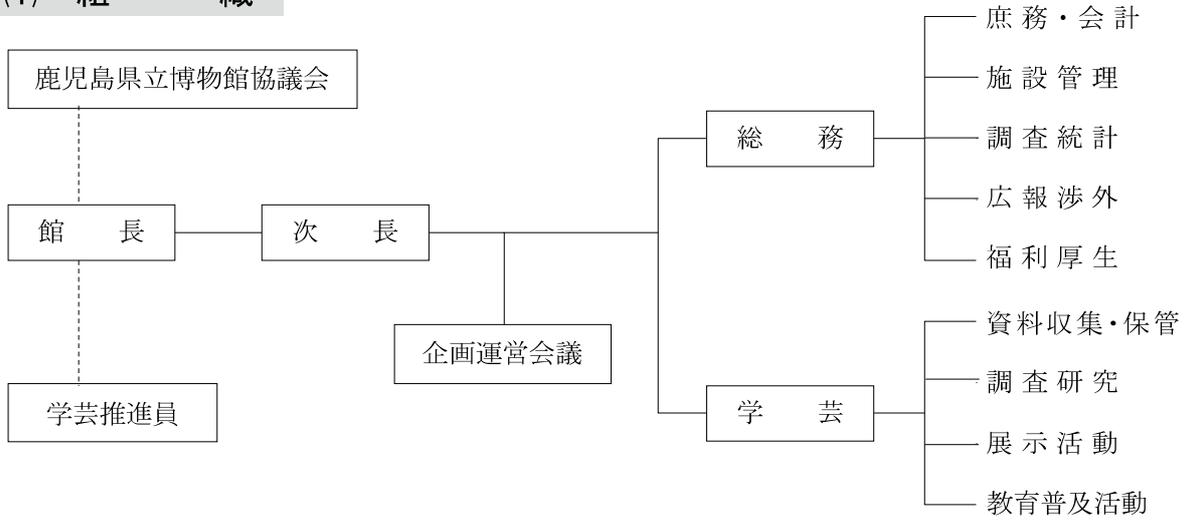
企画展示解説(ミュージアムトーク)



移動博物館

4 組織及び職員

(1) 組織



(2) 職員

ア 職員数

常勤職員						非常勤職員				合計
館長	次長	主査	主任学芸主事	学芸主事	計	学芸推進員	学芸指導員	学芸補助員	計	
1	1	1	1	5	9	1	8	3	12	21

イ 職員一覧

〈常勤職員一覧〉

職名	氏名	担当
館長	山田島 崇文	館務総括
次長	大園 義三	館長補佐
主査	宮脇 和志	庶務会計
主任学芸主事	住吉 啓三	学芸総括
学芸主事	上舞 哲也	脊椎動物
〃	中峯 敦子	無脊椎動物
〃	若松 齐昭	地質
〃	久保 紘史郎	植物
〃	片野田 裕亮	天文

〈非常勤職員一覧〉

職名	氏名	担当
学芸推進員	山下 和則	博物館振興
学芸指導員	上田 聰	自然史全般
〃	森田 康夫	〃
〃	山元 芳彦	〃
〃	深谷 文香	〃
〃	前野 萌	〃
〃	宮内 美里	〃
〃	榎木丸 翔太	〃
〃	阿久根 綾華	〃
〃	清水 麻南	(育児休業)

5 令和4年度 県立博物館事業体系表

(1) 資料収集・保管	ア	県内における動物・植物・岩石・化石等の自然資料の収集・保管 (ア) 「多様性豊かな鹿児島県の自然遺産」収集保存事業(R3～R7) (イ) 博物館活動による資料収集事業(県本土, 甕島, 種子島, 屋久島等) (ウ) 資料交換, 購入, 寄託・寄贈等による収集・保管
	イ	収集資料の標本化(はく製・レプリカ等)
	ウ	博物館収蔵資料管理システムの導入, 資料整理・データベース化
(2) 調査研究	ア	自然に関する調査研究(三島, トカラ, 県本土等)
	イ	博物館活動推進に係る調査
	ウ	調査・研究報告書の刊行
(3) 展示活動	ア	常設展示 (ア) 自然総合A(本館2階) ・「鹿児島県の自然」(海, 川と湖沼, 山, 大地) ・ディスカバリールーム(体験コーナー) (イ) 自然総合B(本館3階) ・「鹿児島の人々と自然のつきあい方」 ・楽しい実験コーナー, 3D劇場(とび出す映像) (ウ) プラネタリウム・恐竜化石(別館 宝山ホール4階) ・プラネタリウム…学習投映(幼児用, 小・中学生用) 一般投映(四季の星空) ・天文展示室…デジタル四次元地球儀, プラネタリウムの仕組み展示 ・恐竜化石展示室…恐竜化石, 南北アメリカ産化石, 本県産化石の展示
	イ	企画展示等 ・企画展「トカラの歩き方」 (3/19～6/5) ・企画展「チャレンジ理科研究」 (6/26～8/28) ・企画展「キケンないきもの」 (7/2～9/4) ・企画展「ようこそ昆虫レストラン」 (10/1～11/27) ・企画展「理科に関する研究記録」 (10/2～10/15) ・企画展「鹿児島, 渚の『…』」 (12/24～2/26) ・企画展「そうだったのか! 霧島山」
	ウ	移動展示(移動博物館推進事業 ー博物館がやってきたー) 第1回:鹿児島養護学校 (7/5～7/7) 第2回:知名町 (11/17～11/20) 第3回:志布志市 (1/24～1/29)
(4) 教育普及活動	ア	博物館科学教室(原則として毎月第1・3日曜日, 夏休み期間中)
	イ	博物館天文教室(原則として毎月第2・4日曜日)
	ウ	楽しい実験(毎週土・日曜日, 1日3回)
	エ	博物館教養講座
	オ	パワーアップ研修
	カ	フィールドワーカー養成講座
	キ	教育支援活動(出前講座:教育機関, 市町村教育委員会, 学校等)
	ク	博物館学習情報室の活用(自然科学の情報提供及びレファレンス)
	ケ	標本資料等の貸出し(はく製や標本, ディスカバリーBOX 等)
	コ	広報活動の推進(月行事表等の発行など)
	シ	ボランティア支援活動(中・高校生ボランティア, 一般ボランティア) 博物館まつり(博物館まつり:5/22, 秋まつり:10/9)

6 博物館活動事業

「博物館法」及び「鹿児島県立博物館の設置及び管理に関する条例」に規定する博物館設置の目的を達成するため、博物館活動の基本である「資料収集・保管」、「調査研究」、「展示活動」、「教育普及活動」の各事業を実施する。

事項名	博物館活動事業概要
資料収集・保管	資料の収集(採集, 購入, 製作等), 資料の整理・保管, データベース作成
調査研究	自然や科学に関する調査・研究, 研究報告書刊行, 配布
展示活動	常設展示の更新補充, 企画展, 速報展, 移動展示の実施
教育普及活動	プラネタリウム, 天文教室, 楽しい実験, 科学教室, 学習支援, レファレンス対応等

(1) 資料収集・保管

ア 博物館資料収集・保管事業

(ア) 目的

鹿児島県本土や甕島, 種子島や屋久島の自然資料を中心に, 必要に応じて県外・外国産も加え, 年次計画のもとに収集・保管して調査研究, 展示活動, 教育普及活動等への活用を図る。

(イ) 事業内容

- ・県本土等の自然資料を収集し, 標本化して保存する。生態写真等の二次資料の収集も計画的に行う。
- ・将来的に移動博物館事業を実施する予定地域の自然資料収集を行う。
- ・収蔵資料の整理と保管及びデータベース化の充実に努める。

(ウ) 資料収集予定地域

鹿児島県本土や甕島, 種子島や屋久島

イ 「多様性豊かな鹿児島の自然遺産」収集保存事業(令和3年度～7年度)

(ア) 目的

トカラ列島や三島, 奄美群島等において, 学術的価値の高い自然資料を収集して, 標本化して保存し, 次代に引き継ぐと共に, 学校教育や県民への情報の提供等への活用を図る。

(イ) 事業内容

トカラ列島や三島, 奄美群島を中心に, 貴重な自然資料の実物資料や映像資料等の収集を行う。

(ウ) 資料収集地域(予定含む)

令和3年度 甕島, 奄美高島部
 令和4年度 三島, トカラ
 令和5年度 屋久島, 奄美低島部
 令和6年度 甕島, 奄美高島部
 令和7年度 トカラ, 種子島

過去の資料収集事業実績

	令和2年度	令和3年度
動物	鳥類・哺乳類を収集（県内各地） 阿久根市でクサフグ産卵の映像資料収集 屋久島で動物資料収集 奄美大島で動物資料収集	始良市・霧島市で野鳥の映像資料収集 出水市・伊佐市で両生類収集 甑島で両生類・野鳥の映像資料収集 沖永良部島で動物資料収集
昆虫	紫尾山で昆虫灯火収集 志布志市で水生昆虫収集 種子島で水生昆虫収集 喜界島で水生昆虫収集	伊佐市で水生昆虫収集 鹿児島市・指宿市でオキナワスジボタル収集 種子島で水生昆虫収集
植物	下甑島で植物収集 喜界島で植物収集	甑島で植物収集 南さつま市野間岳で植物収集
地質	桜島の噴石落下痕映像資料収集 八重山で鉱物収集 甑島で映像資料収集 霧島市で魚卵状珪石収集 屋久島で生痕化石型どり	指宿市で地形のドローン映像資料収集 沖永良部島で地形のドローン映像資料収集 日置市で岩石収集 水無池マールで地層剥ぎ取り 漂着軽石収集
天文	南薩で流星群の映像資料収集 始良市で部分日食の映像資料収集 千貫平でカノープス映像資料収集	鹿児島市千貫平でカノープス映像資料収集 鹿児島市でふたご座流星群映像資料収集 鹿児島市でしぶんぎ座流星群映像資料収集

※収蔵資料数

種子植物	32,510
シダ植物	7,467
コケ植物	6,884
藻類	41
植物計	46,902

哺乳類	250
鳥類	1,019
爬虫類	160
両生類	77
魚類	318
甲殻類	246
貝類	18,850
昆虫類	66,560
海綿・サンゴ	94
その他	28
動物計	87,602

岩石・鉱物	2,017
化石	2,058
テフウ	232
地学計	4,307
一次資料合計	138,811

図書・文献	20,141
写真	2,348
模型	288
その他	73
二次資料合計	22,850

総資料数 161,661

※ 展示資料数

(令和4年3月31日現在)

	標 本			二 次 資 料		展示資料計
	植 物	動 物	岩石・化石	模型・レプリカ	写 真	
本 館	169	3,137	370	177	481	4,334
宝山ホール(化石展示室等)	0	0	737	3	9	749
計	169	3,137	1,107	180	490	5,083

※ 魚、両生・爬虫類等の生体展示 約125点

※ 模型数にはジオラマ内の植物を含む

(2) 調 査 研 究

ア 自然に関する調査・研究

鹿児島県内の自然および収蔵資料について調査・研究し、得られた成果を展示活動や学校教育等に活用する。また、県内外の研究機関や博物館等へ、本県の自然に関する情報を提供するとともに、自然の大切さを広く県民に啓発する。

・事業内容

県内各地で自然に関する調査研究を行う。

〈過去の実績〉

	令和2年度	令和3年度
動物	指宿市で外来種オキナワキノボリトカゲ調査 出水市でカスミサンショウウオ生息調査 伊佐市でベッコウサンショウウオ生息調査 奄美大島でオオトラツグミ羽数調査	南さつま市・南九州市・日置市でシギ・チドリ調査 出水市・阿久根市でカスミサンショウウオ調査
昆虫	開聞岳山麓でアサギマダラマーキング調査 南さつま市で水生昆虫調査 下甕島で昆虫調査 出水市でリュウキュウアブラゼミ発生数調査 大隅半島で昆虫調査 種子島で水生昆虫調査	鹿児島市・指宿市でオキナワスジボタル調査 開聞岳でアサギマダラマーキング調査
植物	錦江湾高校内の植物調査 南薩でキク類調査 蘭牟田池周辺の植物調査 霧島でハナヅル調査 大隅半島で植物調査	日置市で北限のマングローブ調査 志布志市でカワゴケソウ科調査
地質	桜島の噴石落下痕調査 阿久根市で田代鉦山跡調査 阿久根市で採集されたクルミ化石調査	姪良市で国分層群露頭調査 日置市助代鉦山跡調査 水無池マール噴出物調査
天文	ペルセウス座流星群観察 内之浦宇宙空間観測所見学 鹿児島市でおうし座流星群(北群)と秋の星座観察 千貫平で冬の星座とカノープスの観察	鹿児島市千貫平でカノープス観察 鹿児島市でふたご座流星群観察 鹿児島市でしぶんぎ座流星群観察

イ 博物館活動推進に係る調査

- (ア) 鹿児島県を代表する自然史博物館として、県民へ情報提供し、博物館活動を活性化するために、他の先進博物館の展示内容、展示手法および資料の整理・収蔵方法、博物館運営等について、生きた情報を収集して国内外の博物館活動の動向を探り、博物館活動振興整備に関する調査を行う。
- (イ) 県内博物館等の実態および県内博物館活動に対する期待や学校教育における博物館の活用状況を把握し、展示活動や教育普及活動の充実・活性化を図る。

ウ 調査・研究報告書の刊行

鹿児島の自然に対する理解を深める参考資料に資するため、鹿児島県立博物館研究報告を作成し、県内外の博物館や研究機関および県内の教育機関等に配布する。



資料収集(生痕化石の型取り)

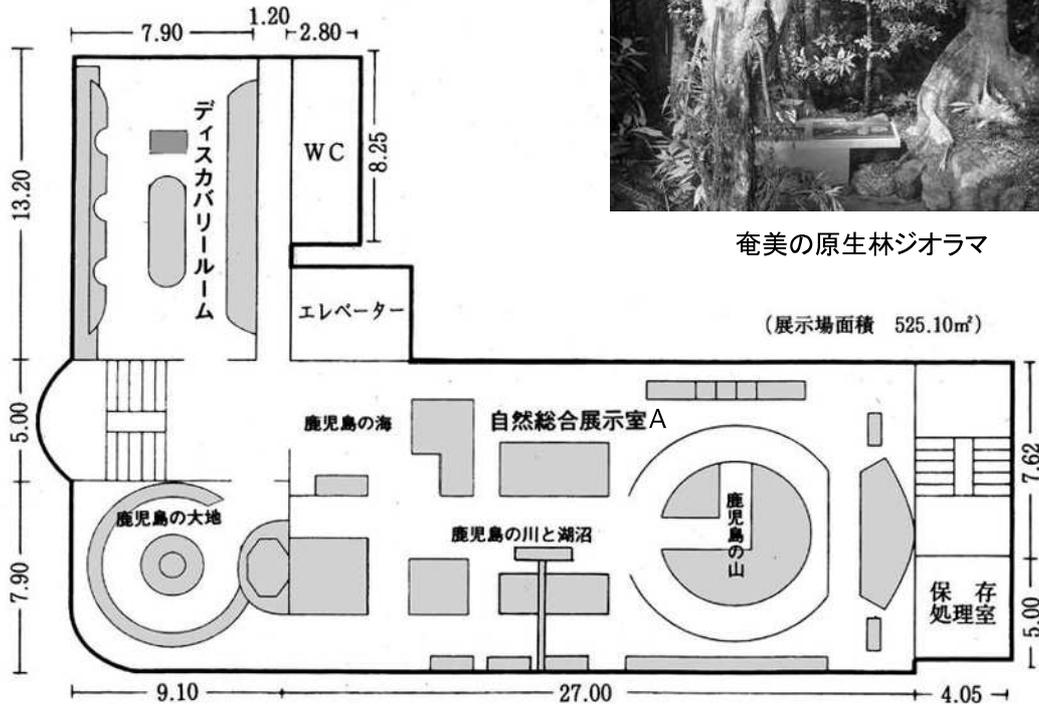


教養講座

(3) 展示活動

ア 常設展示

(ア) 本館2階



奄美の原生林ジオラマ

(展示場面積 525.10㎡)

《自然総合展示室A》 テーマ「鹿児島島の自然」

〈鹿児島島の海〉

○黒潮に生きる

- ・バショウカジキ, キハダマグロ等の剥製

○海のおアシスーサンゴ礁ー

- ・サンゴ礁ジオラマ
- ・映像「サンゴ礁の海中散歩」

○黒潮洗う岩礁海岸

- ・潮間帯のジオラマ

〈鹿児島島の川と湖沼〉

○マングローブの生きものたち

- ・マングローブ林のジオラマ
- ・メヒルギ, オヒルギ, リュウキュウアユ, オキナワアナジャコ等
- ・映像「行ってみようマングローブの林へ」

○川内川の生態系

- ・川内川の植物・昆虫, 鳥類
- ・映像「川内川を下ってみると」

○渚でのドラマ

- ・アカウミガメの産卵, 砂の拡大観察装置
- ・ハマボウフウ, コウボウムギの地下茎
- ・鹿児島島の地質と砂浜
- ・砂浜は今

○鹿児島島の海

- ・モダマ, ココヤシ, ルリガイ, 海藻
- ・岩礁の貝, 砂浜の貝

○蘭牟田池の生物

- ・蘭牟田池の植生分布, 貴重な昆虫, 泥炭

○水辺の環境の変化

- ・絶滅の恐れのある動植物, 帰化生物
- ・身近な環境調査

○人と自然の調和

- ・水田の生きものたち
- 植物, 昆虫, 貝, 土壌動物, 鳥類

○宇治群島・草垣群島の自然

○日本最大のツル越冬地「出水」

〈鹿児島県の山〉

- 東洋のガラパゴス—奄美大島—
 - ・原生林ジオラマ
 - ・オキナワウラジロガシの森
 - ・アマミノクロウサギ、ルリカケス等天然記念物や希少な野生生物
 - ・映像「原生林の一日」
- 生きものたちの境界線—トカラ列島—
 - ・渡瀬線と動物分布
 - ・琉球列島の成り立ち
 - ・アカヒゲ、トカラハブ、昆虫類

〈鹿児島県の大地〉

- 動く大地
 - ・震源の分布パネル
- 大地の始まり
 - ・アンモナイト化石等
- 山をつくるマグマ
 - ・花こう岩やグリーンタフ等
- 広がるサンゴ海
 - ・サンゴ石灰岩や星砂
- 沈む大地
 - ・地溝の形成史とシナサイ化石

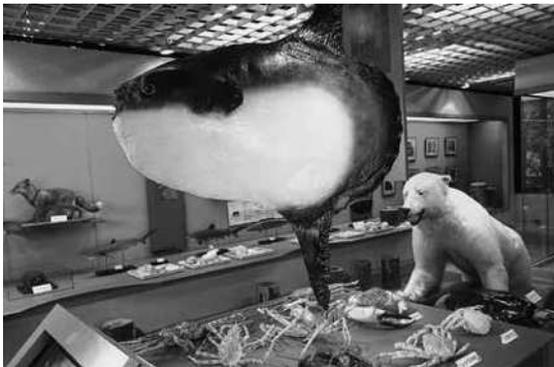
《ディスカバリールーム》

- 石は語る
 - ・鹿児島県の岩石
 - ・示準化石と示相化石
- 虫たちの世界
 - ・さまざまな昆虫
 - ・虫たちの知恵
- たねのふしぎ
 - ・種子の広がり方
- 木の香り体験
- まちの自然
 - ・身近な虫
- 里山の自然
 - ・けものたち
 - ・木片を削ってかいてみましょう

- 洋上のアルプス—屋久島—
 - ・小花之江河のジオラマ、屋久杉
 - ・ヤクシマザル、ヤクシマウメバチソウ等
- 四季を織りなす活火山—霧島—
 - ・キュウシュウジカ、鳥類、南限のチョウ
- 詳しい説明の展示
 - ・動物の地理的異変、亜種間比較
 - ・昆虫、鳥類、アマミノクロウサギ等

- 巨大カルデラの時代
 - ・火砕流堆積物や炭化木
- 桜島火山の歴史
 - ・地形模型や溶岩
- 大型映像
「鹿児島県のタイムトラベル—1億年の旅—」
- スレッド・レース・スコリア
- 偏光顕微鏡による岩石薄片の観察

- ・ドングリであそぼう
- 水辺の自然
 - ・貝標本
 - ・貝あわせ
 - ・イワシクジラの骨
- のぞいてみようミクロの世界
 - ・昆虫の複眼
 - ・ミジンコ
- 本物にちょっとだけふれよう
 - ・世界のカニ、マンボウ、ウミガメ、シロクマ、オオヤマネコ
- 野鳥の鳴き声を聞こう
- 鹿児島県の国指定天然記念物
- 奄美の自然(映像)

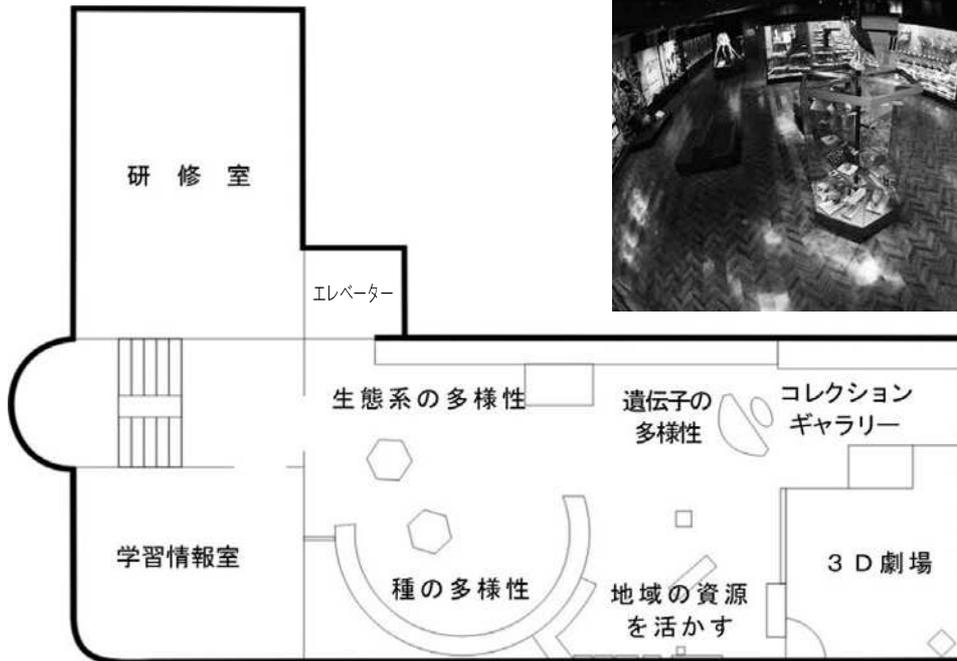


ディスカバリールーム



屋久島・小花之江河のジオラマ

(イ) 本館3館



《自然総合展示室B》 テーマ「鹿児島の人々と自然のつきあい方」

- メッセージの島
 - ・外来種の脅威
 - ・頂点捕食者クマタカ
- 生態系の多様性
 - ・鹿児島の生態系の多様性
 - ・風習と植物の利用
 - ・植物と暮らしの文化
- 種の多様性
 - ・鹿児島の種の多様性
 - ・わたしを探して
 - ・鳥の形と機能
- 遺伝子の多様性
 - ・ニワトリの多様性
- 地域の資源を活かす
 - ・自然と共生する生活と観光
 - ・鹿児島の地層
 - ・鹿児島の化石
- コレクション・ギャラリー
 - ・ウシウマの骨格標本
 - ・キリンの骨格標本

〈3D劇場〉 上映開始時刻 10:00, 11:00, 13:30, 14:30, 15:30(約7分間)昆虫の立体映像(とび出す映像)を毎日5回上映する。

〈楽しい実験〉 実験開始時刻 11:15, 14:45, 15:45
見学者も楽しく参加できる実験を、毎週土曜日、日曜日に3回ずつ実施する。

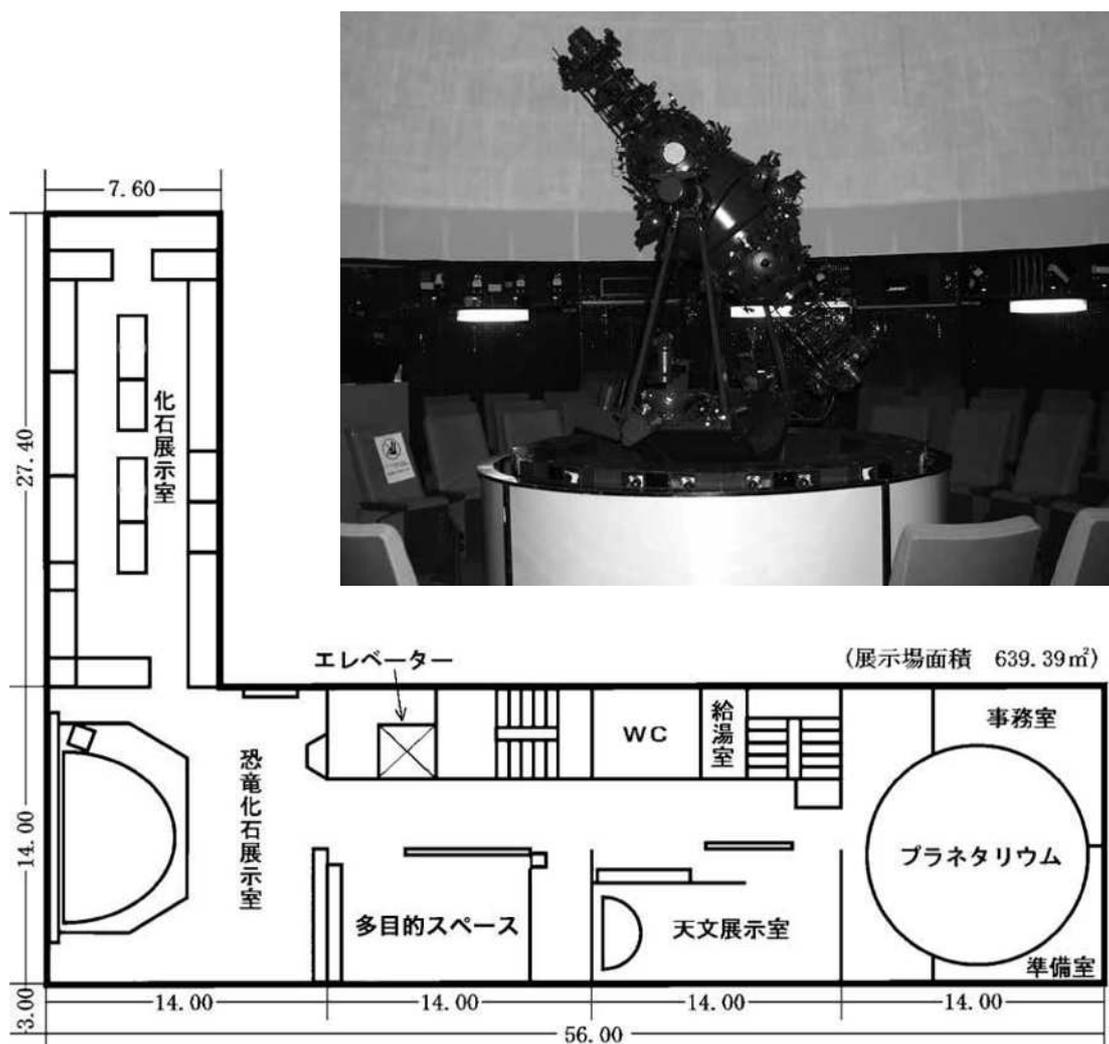


鹿児島の地層, 化石



種の多様性

(ウ) 別館 宝山ホール(県文化センター)4階



《プラネタリウム》

- 一般投影
 - ・四季の星空案内
 - ・投影時間(30分) 11:00, 13:30, 15:00
- 学習投影「プラネタリウム天文教室」
 - ・幼児投影
 - ・月と星(小学生用)
 - ・地球と太陽系(中学生用)

〈設備〉

- ・直径 10m, 水平ドーム型, 座席数 85
- 自動式プラネタリウム(GX-10AT型)

《天文展示室》

- ・デジタル四次元地球儀(ダジック・アース), 大型月球儀など

《恐竜化石展示室》

- ・小川勇吉氏から寄贈された北米ユタ州産の恐竜化石アロサウルスとカンプトサウルスを, 八島太郎画伯の背景画とともに展示
- ・県内の主な化石産地の化石を展示

《化石展示室》

- ・小川勇吉氏から寄贈された三葉虫類, ウミユリ, アンモナイト, 腕足類, 魚類, カメ類, 鳥の足跡など430点余りを展示
- ・大野透太郎氏から寄贈されたボリビア産化石を展示

《多目的スペース》

- ・天文教室や企画展に利用

イ 企画展示等

鹿児島を中心とした自然に関して、博物館のこれまでの収蔵資料や調査研究の成果、児童生徒の自然に関する作品や研究記録等を活用して、時機を得た内容に基づいて展示を行う。

テーマ	開催期間	内 容
トカラの歩き方	3/19(土) ～ 6/5(日)	有人無人を合わせたトカラ列島の島々の自然や文化を島ごとに紹介します。
チャレンジ理科研究	6/26(土) ～ 8/28(日)	自由研究のやり方やまとめ方、貝や昆虫・植物や岩石の標本を作るポイントは？令和3年度の児童・生徒の優れた理科研究記録や標本を展示して、研究の進め方や標本の作り方を紹介します。
キケンないきもの	7/2(土) ～ 9/4(日)	危険な生物は恐ろしい存在のように感じますが、本当は生きていくために爪や牙、毒を使っているだけに過ぎません。一生懸命に生きる危険な生物たちの不思議で魅力的な生態を紹介します。
ようこそ昆虫レストラン	10/1(土) ～ 11/27(日)	昆虫は、日本や世界の各地で伝統的に食されてきました。しかし近年、人類の危機を救う食材として、改めて注目されています。身近な昆虫に託された新たなミッションとは何か、分かりやすく紹介します。
理科に関する研究記録	10/2(日) ～ 10/15(土)	令和4年度「理科に関する研究記録展」に出品された優秀作品のすべてを展示します。
鹿児島、渚の『…』	12/24(土) ～ 2/26(日)	全国第3位の長い海岸線を持つ鹿児島県には、砂浜や磯浜、珊瑚礁などさまざまな海岸があります。その海岸に適応した植物や動物、人間の暮らしを通して、鹿児島の自然の多様性を紹介します。
そうだったのか！霧島山	3/25(土) ～ 6/4(日)	1700mの韓国岳を主峰とする霧島山は四季折々の美しい表情を見せてくれます。普段、何気なく眺めたり、歩いたりしている霧島山の知られざる魅力を紹介します。

ウ 移動展示 学ぼう郷土の自然「博物館がやってきた！」実施事業

鹿児島および地域の自然や環境について理解を深めるために展示活動や自然調査、観察会などの支援を博物館が地域を会場として連携して行う。地域の自然遺産や環境を地域住民と館員が共に調査する自然体験活動等を行い、その成果や博物館の所蔵する自然資料、児童生徒の理科作品等を展示することにより、地域の人々の郷土の自然に親しむ心を育む。また、市町村教育委員会や学校と連携し、環境教育、理科や総合的な学習の時間等への支援を行う。

〈開催地〉

第1回 7月5日(火)～7月7日(木) 鹿児島養護学校

第2回 11月17日(木)～11月20日(日) 知名町

第3回 1月24日(火)～1月29日(日) 志布志市

〈事業内容〉

(ア) 展示活動

- ・郷土の自然パネル・実物展示(実施地域関係)
- ・県立博物館の所有する植物、動物、化石・鉱物等の標本、パネル等の展示
「鹿児島と世界の昆虫」「鹿児島の天然記念物」「日本とフィリピンの貝」「化石」等
- ・県内児童生徒の理科優秀作品の展示

(イ) 自然体験活動

- ・楽しい実験
- ・星空観察会